

GREETING :挨拶

私の身のまわりで起きたこと、最近私が考えている事。

今、想うこと

いつも、ありがとうございます。

娘のさくらが生まれて、4ヶ月が経とうとしています。3人の生活もかなり落ち着きました。夜によく寝てくれるので、寝不足に悩むこともなくとても平和な毎日を過ごしております。

さくらが生まれてから、私自身の人生観は確実に変わっています。知らず知らずのうちに両肩にとても重いものを背負っているのをふと感じることもあり、まだほとんど何もできないさくらを見ていると、とにかく日々平和に過ごして欲しいと願うばかりです。

ただ、同時に思うのは子供には自分の人生を自分で創っていく権利があるということです。今まで、親がいなければ何もできませんが、数年も経てば自我が芽生えてきて思が出てきます。

さくらの人生を創っていくのは彼女自身です。
もちろん親としての私の役割は続きますが、彼女の人生においては彼女自身が主役ですから、私自身は親として黒子に徹したいと思います。



一方で、権利があるのなら義務もあります。それは、**自分の責任は自分で取る**ということです。私自身強く思うのは、**人生において自分自身の責任は世界中でただ一人、自分でしか取れない**ということです。親であっても子供の責任を取るのには限界があります。未成年のうちはまだしも、特に大人になってからはそこを誤解してはいけないと思います。

人生を幸せに生きるために何が大切なのか?

私は、自己責任の意識で生きることを始めとして、その人が**どんな考え方で生きているか**が重要な要因だと思います。

さくらが将来心の底から幸せと思えるような人生を過ごすためにも、**正しい考え方**を身につけるようアドバイスしていくのが親である私の役割だと思います。

さくらが生まれてから、人生について考える時間が増えました。人間としてさらに成長させてもらえるチャンスに恵まれたと幸せを感じています。

これから、もっともっと人として成長できるよう日々自分を鍛えていきたいと思います。

皆さん、今後ともよろしくお願い致します。

感謝!!

FAVORITE :お気に入り

今回は、致知出版社の「『大学』を素読する」という本を紹介させていただきます。



『大学』を素読する

「大学」とは中国古典の四書(大学、中庸、論語、孟子)の一つで、江戸時代には**武士の基本的な教科書**として用いられていた書です。小学校に銅像として必ずあった、薪を背負いながら読書をしている**二宮尊徳**が読んでいる本としても有名です。

大学には論語と同じように、**人間が生きるための原理原則**が書いてあります。

この本を繰り返し**素読**することによって、知らず知らずのうちに**人生の原理原則**を体で吸収することができます。20分ほどで読めますし、漢字にはすべて**ふりがな**もふつてありますので、小学校のお子さんでも読むことができます。またCDも付いていますので、毎日それを聞くだけでもいいと思います。もちろん、全文の意味も書いてあります。

私自身は、3~4年後から娘のさくらと一緒に**素読**しようと思っています。偏差値重視の教育ではなく、**心の教育**を重視するのに最適な教科書だと思います。

それほど難しい文章でもありませんし、お薦めの本です。皆さんも、お子さんと一緒にどうでしょうか?



『大学』を素読する

致知出版社
著者 伊與田 覚
定価 1,680円(税込)